

2022 年度年報

2022 年度の考古学・文化遺産専攻および専修の活動報告

2022 年度はコロナ禍が続くものの、授業は対面で実施されました。花見、研究室旅行、忘年会、謝恩会などの飲食を伴う研究室行事は行えませんでしたが、談話会や卒論・修論発表会などは対面でおこなうことができ、通常に近い状況に戻りつつあります。

2023 年度 4 月より、高正龍先生の後任として岡寺良先生が着任されました。また、新たに 49 名の専攻生（基礎講読受講生）と、6 名の大学院生（1 回生）を迎え、新学期が始まり活気のある研究室になっています。FA ゼミは杉沢遺跡の報告書作成、FB ゼミは埴輪焼成実験のための埴輪作成、FC ゼミは篠塙跡の分布調査、FD ゼミは遺跡踏査など活発に活動をおこなっています。今年は、大学院生と教員での歓迎会を実施し、研究室旅行や忘年会をおこなう予定です。

卒業・修了生

2022 年 9 月 修了生 1 名（修士論文は 2022 年 3 月提出済）

2023 年 3 月 卒業生 33 名、修了生 4 名

文化財専門職への就職状況

平塚市（3 月卒業生）

京都府埋蔵文化財調査研究センター（3 月修了生）

積迦堂遺跡博物館（3 月修了生）

備前市（博士課程前期課程在学）

卒業論文題目

スポーツ博物館 — 展示活動に関する実態調査と提言 —

京都府内の遺跡保存と活用に関する現状と提言 — 繩文・弥生時代堅穴住居出土遺跡の事例 —

縄文後期芥川式土器の諸属性の検討

御物石器の形態と石材の関係

関東地方北部における押型文土器の編年

西日本における「環状列石」遺構の研究

近畿東海南関東沿岸部に於ける南海産打ち上げ貝の分布調査 — タカラガイ、イモガイ、オオツタノハを中心として —

籠としての籃胎漆器の特殊性

東日本における人面付土器について

弥生時代における朱の生産と使用 — 若杉山遺跡を中心に —

古墳造出の展開と祭祀の変容

槽作りの琴の集成と分類 — 弥生・古墳時代を中心に —

弥生時代における木偶

5 世紀以降の北部九州と大和盆地出土鉄釘の比較

弥生・古墳時代における斧柄の変遷とその意義 — 近畿地方を中心として —

生駒西麓地域における古墳時代中期の土師器生産様相 — 土師器高坏を中心として —

弥生時代の明石川流域集落遺跡における人口研究

弥生時代の出雲・西伯耆地域における墓域の立地 — 四隅突出型墳丘墓を中心に —

舌からみる筒形銅器の性質

埋葬施設数からみた西播磨地域の前～中期古墳
南山城地域における弥生～古墳時代集落遺跡の植生の検討
初期色絵陶磁器の京都への流通について
中世瓦の編年研究における吊り紐痕の有用性について
近世京都における点茶についての考古学研究
紀州備長炭に関する研究
中世西日本における陶器製大甕の容量とその変遷—備前焼大甕を中心に—
立命館大学所蔵友禅図案第6群資料の年代特定に向けて—書き込みと裏打ち文書から—
日中の刀剣から見る日本刀剣の変遷—古代から中世における刀剣類を中心として—
終末期における珠洲焼の流通の様相
石材から見た京都キリストン墓碑の研究
立地から見る古墳及び終末期古墳と火葬墓の関係性—大阪府柏原市内を中心に—
転用石の使用目的について—近畿の近世城郭を中心に—
飛鳥地域の池遺構とその用途—古代庭園を中心に—
斎宮における土馬祭祀の在り方について—比較と実験から従来の土馬像を見つめなおす—

修士論文題目

縄文時代における大珠の社会的価値
中世前期における城館の防御施設と軍事機能—山形県と福島県を中心に—
12世紀後半から13世紀前半にかけての中央官衙系瓦屋の動向—道具とそこに残された工人の足跡—
風鐸考—通史的試み—